
ノーアンサー

もりそば

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノーアンサー

【Nコード】

N3207Y

【作者名】

もりそば

【あらすじ】

「私」と友人のやり取りの中に、ちよつとドロドロした暗い部分表現してみた習作。

別名表記で、某投稿型掲示板のユーザースペースをお借りして書いたものを少し修正して再掲載させていただきました。

そういえば、友人に本を返さなければいけないのだと思い出し、机の横に下げてある鞆から一冊の文庫本を取り出した。

放課後。なかなか帰宅しないでいる同級生らがしきりにさんざめく声の向こうでは、曇天が暗みを増し、雨もいよいよ降り出さんとしていた。

「はい」

「あらっ。もう読んだの？」

友人は、昨日渡したはずの本がすぐ戻ってきたことに驚いているようだった。受け取ったそれをぱらぱらとめくり、栞の挟みである頁まで目を滑らせていく。

「面白かったでしょう」

まるで当然だと言わんばかりの、自信に満ちた表情で尋ねられたので、私は言葉に詰まった拳句首を傾げた。正直な所、彼女が絶賛する箇所や作品の山場であろう場面を読み込んでも、その面白さは全く理解できなかった。

すると友人は一瞬顔をしかめ、手元の本と私とを見比べた。

「そう。……残念ね、この本、私が好きな作家の中でも一押しなの
に」

伏目がちに呟くと、本を自分の鞆にしまう代わりに今度は、別の文庫本を差し出してきた。私はそれを手に取り、表紙を開いて作者と題名を確認する振りをする。二頁目以降を流し読みする間もなく、

閉じたそれを相手へ突き返した。彼女の見開かれた双眸と目が合う。

「わざわざありがとう。でも、もう終わりにしましょう」

「どうして。まだこれからじゃない。うちにはたくさん本があるわ、そのうち好きな作家も見つかるはずよ」

「それは　　ないと思う。きっと、本じゃないのよ。私のは」

やや考えて、押し切るように言うと、友人の頬はサツと赤みを帯びた。次いで苦虫を噛みつぶしたような表情を見せたが、すぐに視線を逸らされ、伏せられた目元に黒髪が散らばった。

「読書も趣味にならなかつたってことね」

周囲の笑い声に混じって耳慣れたささやきが聴こえた。唇を真一文字に結び、私は頷いた。

これまでも、音楽、活動写真などさまざまなものを目の前の友人は、趣味を持たない私に貸し与えてくれた。しかしどれも駄目だった。三度目の正直となった本もまた、私の興味を引く対象とは違っていた。

「つまらないわ」

吐き捨てるように言うと友人は苛立った手つきで帰りの支度を始めた。

「つまらない？　なぜ」

「なぜ、ですって。分からないの。私、あなたを心配しているのよ。趣味が無いだなんて、毎日生きていてもつまらないじゃない。ええ、そうだわ。あなたの今の在り様はつまらないと私は思う。だからお願いよ、早く趣味を見つけてちょうだい」

早口で捲し立てる彼女を、私は当惑した顔つきで眺めていた。
一人、また一人と同級生が帰っていく。

多趣味であるこの友人にとって、私の在り様はつまらないらしい。確かに彼女の言動は自信に溢れている。しかし、果たして趣味とは、他人のお下がりから発見できるような安っぽい代物なのであるうか。視線を宙に彷徨わせ、それから私は自身の気持ちを整理するつもりで言葉を選んだ。

「あなたにしてみれば　つまらないのだろうけど。私は毎日を楽しんで生きているし、自分の在り様を寂しいとは思うけれども、つまらないと感じたことは一度もないわ。無趣味であることの何がいけないのかしら」

友人は黙ったままだった。その刺すような眼差しを、私はじっと受け止めた。

このままとどめの一言を告げることにはためらいを覚えた。輝かしい青春を謳歌する彼女と、私とを隔てる溝が、もしかするとこの一言によって二度と修復できなくなる気がしたからだ。

「雨だ」

「ひどいな、こりゃ」

つい先程まで傍らにいた同級生らが、窓ガラスにへばりついて笑い合っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3207y/>

ノーアンサー

2011年11月9日18時10分発行